

青年期双極II型障害におけるBDNFとセロトニン誘発による血小板カルシウムの測定

著者	小野 靖樹
著者別表示	Ono Yasuki
雑誌名	平成19(2007)年度 科学研究費補助金 奨励研究 研究概要
巻	2007
ページ	2p.
発行年	2020-05-15
URL	http://doi.org/10.24517/00062520



青年期双極II型障害におけるBDNFとセロトニン誘発による血小板カルシウムの測定

Research Project

All

Project/Area Number

19925030

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

医学Ⅲ(臨床医学)

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

小野 靖樹 Kanazawa University, 医学部附属病院, 医員

Project Period (FY)

2007

Project Status

Completed (Fiscal Year 2007)

Budget Amount *help

¥610,000 (Direct Cost: ¥610,000)

Fiscal Year 2007: ¥610,000 (Direct Cost: ¥610,000)

Keywords

双極II型障害 / BDNF / 前頭葉機能

Research Abstract

研究目的:児童青年期に抑うつ症状で発症した場合、単極性のうつ病か、双極性II型障害であるのか鑑別が容易でない。そのため鑑別において生物学的マーカーの有用性を検討した。

研究方法:当初はBDNF(Brain derived neurotrophic factor)と血小板におけるセロトニン誘発によるカルシウムの濃度の変化を観察する予定であったが、後者は実験結果にばらつきが多く有意な結果が得られなかったため、計画を変更し、前頭葉機能検査、近赤外線スペクトロスコピー(NIRS)による前頭葉の血流変化、そして従来計画していたBDNFのほか、ノルアドレナリン代謝産物の測定を行った。また検査のタイミングについても当初は大うつ病エピソード、軽躁病エピソード、混合性エピソードについて行う予定であったが、後の2つの時期については、短い期間で妥当する時期を認めず、来院時の抑うつ状態での検討のみとした。

研究成果:前頭葉機能検査については言語記憶、視覚記憶の領域で正常群に対して低下しているものと、ほぼ変わらないものに分けられ、特に前者では近赤外線スペクトロスコピーでも血流の上昇が正常群に比べ低かった。またBDNFについても前者のほうが、より低下していた。しかしノルアドレナリン代謝産物については差を認めなかった。従って前頭葉機能検査、

NIRS, BDNFは生物学的マーカーとして有用であると考えられた。すなわち成人で得られた結果とほぼ同様の結論が10名の患者でも認められた。なお臨床的にはMDQ(Mood disorder questionnaire)を用いて両者の鑑別に用いているが、MDQによる項目数と比較した場合、MDQで7以上を指標にすると、ほぼ同様に2群に分けることができた。

Report (1 results)

2007 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-19925030/>

Published: 2007-03-31 Modified: 2020-05-15